

公共事業再評価調書

整理番号 H18 - 35

担当部課名	県土整備部 港湾空港課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 7 6
		E - MAIL	kowan @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工 長期継続 (10 年) 再評価後 (年) その他 ()
---------	--------------------------------------

1 事業概要

事業種別	港湾事業	事業主体	県 市町村 その他 ()																																																
事業名	八戸港改修(重要)事業 道路改良	地区名等	八戸港 市町村名 八戸市																																																
事業方法	国庫補助 県単独 財源・負担区分	国 50 % 県 50 % 市町村 % その他 %																																																	
採択年度	平成 9 年度 (用地着手 平成 年度 / 工事着手 平成 9 年度)																																																		
終了予定年度	平成 23 年度 (平成 年 月 工期変更 当初計画時 平成 年度)																																																		
事業目的	当該臨港道路(白銀北沿線)は八戸港の各臨港地区を直結し、港湾の一体化と貨物輸送の円滑化を図ると共に市街地の大幅な交通の緩和を担っている主要な臨港道路である。平成 10 年度には当路線に接続する八太郎 2 号ふ頭が完成し、アクセス車両が増加してきていることから、当路線の道路改良(右折レーン設置・舗装工及び歩道工)を実施することにより、車両及び歩行者の通行の安全対策を図ることとする。更に震災時には当路線に接続する 3 号埠頭の耐震強化 N 岸壁が緊急物資の輸送拠点となり、当路線が緊急物資の輸送ルートとなることから、当路線に架かる八太郎大橋の耐震強化を併せて実施するものである。																																																		
主要内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>当初計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨港道路</td> <td>2,476 m</td> <td>2,476 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>橋梁耐震補強</td> <td>1 基</td> <td>1 基</td> <td>0 基</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>事業計画については、当初計画時と変更は無い。</p>			区 分	当初計画時	再評価時	増 減	臨港道路	2,476 m	2,476 m	0 m	橋梁耐震補強	1 基	1 基	0 基																																				
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																																																
臨港道路	2,476 m	2,476 m	0 m																																																
橋梁耐震補強	1 基	1 基	0 基																																																
事業費	<p>当初計画時総事業費 2,559 百万円 (単位: 百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>~ 15 年度</th> <th>16 年度</th> <th>17 年度</th> <th>18 年度</th> <th>小 計</th> <th>19 年度 ~</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td>1,037</td> <td>50</td> <td>100</td> <td>341</td> <td>1,528</td> <td>1,031</td> <td>2,559</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>(0)</td> <td>()</td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td>年 月変更</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>1,037</td> <td>50</td> <td>100</td> <td>341</td> <td>1,528</td> <td>1,031</td> <td>2,559</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>(0)</td> <td>()</td> <td>(0)</td> </tr> </tbody> </table>				~ 15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	小 計	19 年度 ~	合 計	計 画	1,037	50	100	341	1,528	1,031	2,559	(うち用地費)	()	()	()	()	(0)	()	(0)	年 月変更								実 績	1,037	50	100	341	1,528	1,031	2,559	(うち用地費)	()	()	()	()	(0)	()	(0)
	~ 15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	小 計	19 年度 ~	合 計																																												
計 画	1,037	50	100	341	1,528	1,031	2,559																																												
(うち用地費)	()	()	()	()	(0)	()	(0)																																												
年 月変更																																																			
実 績	1,037	50	100	341	1,528	1,031	2,559																																												
(うち用地費)	()	()	()	()	(0)	()	(0)																																												

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	(うち用地費)		59.7 % [/]	100 % [/]
			(%) [/]	(%) [/]
	主要工種	臨港道路 (533百万円)	100 %	%
毎割合	橋梁耐震補強 (2,026百万円)	32.3 %	%	
(事業費)	(百万円)	%	%	
説 明	道路改良(右折レーン設置・舗装工・歩道工)については平成 9 年度より着手し、平成 13 年度に完了している。八太郎大橋の耐震補強工については平成 12 年度に着手をし、平成 17 年度までに橋梁上部工の補強を完了し、平成 18 年度より下部工の補強を進めるところであり、事業の早期完成に向けて鋭意努めているところである。			
問題点・解決見込み	事業を進めるに当たっての阻害要因は無く、順調に事業の進捗を図ることができる。			
事業効果発現状況	道路改良については完了しており、当路線の交通混雑の解消及び通行車両・歩行者の安全確保は図られている。耐震補強工については橋梁全区間の補強完了後に初めて効果が発現されるものであり、現時点での事業効果は発現されない。			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <p>平成7年の兵庫県南部地震による道路橋の甚大な被害の経験を踏まえ、橋梁を含めた社会基盤整備における耐震化は必須なものとなってきている。また、近年の世界規模の災害が多発しているなか、住民の防災意識も高まってきているため、社会基盤の防災安全対策が求められている。</p>	<p>【県内の評価】</p> <p>県内における道路橋においてはS55以前の示方書に基づき造られたものについて、随時橋梁補修整備（耐震化）を進めているところである。（参考：八太郎大橋（着工S48～完成S55））</p>	
	当地区における評価	八戸港の臨港道路に架かる他の全橋梁については耐震化整備が完了もしくは進行中といった状況であり、ネットワークの連続性を確保するためにも当該橋梁の耐震化は必要である。		
必要性	八戸港は県が管理する重要港湾であることから、事業主体は青森県である。八戸港において八太郎大橋の外に八戸大橋、シーガルブリッジ及び運沼陸橋といった橋梁が存在するが、現在、前者の2橋については既に耐震化が完了されており、後者の橋梁については現在耐震化を進めており、平成18年度に完了する予定である。よって、八戸港各臨港地区及び背後の市街地とのネットワークの連続性を保つためにも当該橋梁の耐震化は必要である。			(a) ・ b
適時性	震災時には八戸地域の緊急物資の輸送拠点として当該地区にある3号ふ頭耐震強化N岸壁がその役割を担うが、現在それに隣接する緑地（八太郎）において防災拠点としての機能を持ち合わせた緑地整備事業を進めている。また、それに接続する八太郎3号ふ頭線に架かる運沼陸橋においても現在耐震化整備が進められており、当該地区において一体化した耐震整備が進められているところである。			(a) ・ b
地元の推進体制等	平成17年10月に行った八戸港臨港道路の交通量調査の結果、当該路線では18,992（台/12時間）（24時間換算では24,880台）といったかなりの交通量があり、有事の際には利用者にかかりの影響を及ぼすこと、また、人命にも関わってくる事が予想されることから、八戸市及び地元の要望は大きい。			(a) ・ b
効率性	道路改良及び耐震改良することにより、交通混雑の解消及び陸上輸送距離の短縮を図ることができるが、それに伴い自動車排出ガス（CO ₂ 、NO _x ）の排出量が減少され、環境の保全・向上効果が期待される。			

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1)道路整備費（割引後）	百万円	2,617 百万円	2,617 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	- 百万円	2,617 百万円	2,617 百万円
便益項目 (B)	(1)輸送費削減便益（割引後）	百万円	2,458 百万円	2,458 百万円
	(2)耐震便益（割引後）	百万円	2,038 百万円	2,038 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	- 百万円	4,496 百万円	4,496 百万円
B / C			1.72	
<p>【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等)</p> <p>「港湾投資の評価に関する解説書2004（平成16年10月 港湾事業評価手法に関する研究委員会 編）」</p> <p>【費用対効果分析における特記事項】</p> <p>事業採択時の費用対効果分析は平成10年度新規事業から行っており、当初計画時は費用対効果分析を行っていない。</p>				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A) · B · C
コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 橋脚の耐震補強工法（巻立て工法）の比較検討を行い、工事費の最も安価なＲＣ巻立て工法を採用している。	(a) . b
代替案	【代替案の検討状況】 採用したＲＣ巻立て工法の外に鋼版巻立て工法、連続繊維巻立て工法、ＰＣコンファインド工法などといった代替案が考えられるが、経済性及び施工性において採用工法より劣る。	(a) . b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A) · B · C
住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 八戸市を通して、事業の早期完成に向けての要望が出されている。	【住民ニーズ・意見】 三陸はるか沖地震により被害を被った八戸地域の住民にとっては地震に対してかなり敏感であり、災害への不安を解消するためにも早期の事業完成を望んでいる。
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 地域区分 H4b (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)対応内容 地震災害の防止対策として、既設橋梁の耐震補強工事を行っている。	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)対応内容 河川内工事を伴うことから、水質汚濁を防止する最適工法の選択及び魚類などへの影響を考慮し、施工時期を限定して工事を行うこととしている。
地域の立地特性	八戸港は平成 8 年の東南アジアコンテナ定期航路、平成 1 0 年度韓国及び北米コンテナ定期航路の開設、F A Z 関連施設（八戸港国際物流ターミナル、八戸港貿易センター）が開業されるなど、北東北の国際物流拠点港として重要な役割を果たしている。その中で港内各地区を直結し、港湾の一体化と貨物輸送の円滑化及び市街地の大幅な交通緩和の役割を担っている当該路線（八太郎大橋）は特に重要な臨港道路である。	

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止（林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る）
評価理由	八太郎大橋は S 5 5 以前に造られており、現在の道路橋示方書（平成 1 4 年）の基準を満たしておらず、大規模な地震に対して致命的な損傷を受けかねない。港湾管理者としては最低限の処置として、既存橋梁の補強工事を行い現在の基準に合わせた耐震性を確保することにより、通行利用者への万全な安全対策を図りたい。			
備考				

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針（案）どおり		対応方針（案）を修正すべき	
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止（林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る）
附帯意見				
評価理由				